

25 南北朝・室町期の文化

南北朝時代の文化 14世紀前半 歴史書・軍記物が代表⇒内乱期の反映

特色：新興武士の気質（バサラ〈派手・贅沢〉）を強く反映

歴史書や軍記物語の作成

『増鏡』は源平の争乱を（公家）の立場から書かれ、『梅松論』は、足利氏の政権獲得過程を（武家）の立場から叙述。増鏡は四境の最後、あとの三つは古い順から『大鏡』『今鏡』『水鏡』である。

『神皇正統記』…北畠親房が皇位継承の道理を南朝の側から叙述した。伊勢神道の造詣が深い。他に有職故実書『職原抄』を著した。両著書とも南北朝の戦いで、彼が常陸国で書いたことが出る。有職故実：建武年間行事…後醍醐天皇

南朝方：『太平記』…軍記物 小島法師作(?) 14世紀頃、九州探題 今川貞世がこの書の不足不備を補うためと称して著した書は『難太平記』と名付けられている。

連歌…武家・公家問わず流行したことが「二条河原落書」を例に出ている。

菟玖波集（初の連歌集）・応安新式（連歌の規則書）⇒関白二条良基

庭園…天龍寺庭園・西方寺（苔寺）⇒（夢窓疎石）134 参考

水墨画：山水・花鳥・人物を墨の濃淡で描き、禅の精神を象徴的に表現

美術 水墨画 明兆…「五百羅漢図」

寒山図（可翁）

建築 永保寺開山堂(禅宗様)…岐阜⇒夢窓疎石が開く

北山文化[足利義満時代]

金閣（鹿苑寺 舍利殿）…義満の北山山荘(北山第)

1・2層は和様(寝殿造)、3層は禅宗様 外壁に金箔



整理 I【京・鎌倉五山】とりあえず五山を押さえよう。南禅寺と一位～三位まで知っていればOK だけど、京・鎌倉がゴツチャにならないように気をつける。上が開山・下が出資者。

	別格上位	一位	二位	三位	四位	五位
京	南禅寺	天竜寺	相国寺	建仁寺	東福寺	万寿寺
		夢窓疎石	夢窓疎石	栄西		
鎌倉		足利尊氏	足利義満	源頼家		
		建長寺	円覚寺	寿福寺	浄智寺	浄妙寺
		蘭溪道隆	無学祖元	栄西		
		北条時頼	北条時宗	北条政子		

五山十刹：足利義満の頃

三位がともに栄西が開山であることが覚えるカギになる。義満は、臨済宗のお寺のランキングである五山・十刹の制（＝臨済宗のお寺は官寺に）を整備した。これは宋の制度のまねで、鎌倉時代に原型が出来ていた、というのは正誤問題対策で発展レベル。これに加えて僧侶のランクも決めたが、その頂点が僧録司で、初代に春屋妙葩を任命している。（ランク好きな人ですね）

☆五山僧は、幕府の政治外交顧問としても活躍

☆五山文学…五山僧による漢詩文の隆盛

ex. 絶海中津・義堂周信

五山版の出版(中国書籍の再版など) ex. 「正平版論語」

水墨画 如拙…「瓢鮎図」が頻度で一番 周文…「寒山拾得図」

建築 興福寺東金堂・五重塔(再建 和様) 鹿苑寺金閣

庭園 鹿苑寺庭園 …代表的な池泉回遊式庭園

芸能

古来の神事芸能（＝神に捧げる芸能）であった「猿楽」「田楽」が歌いながら踊る歌舞・演劇の形を整えていく。寺社に属する座が結成され専門的な芸能集団を形成する。

足利義満の保護を受けた観世座の

観阿弥・世阿弥 父子によって芸術性の高い「猿楽能」が完成される。世阿弥の

著が『風姿花伝（花伝書）』。を覚えよ！能の脚本を「謡曲」と言う。

猿楽の 大和猿楽四座 が隆盛⇒本所は 興福寺

義満の保護

→世阿弥元能(「申楽談義」)、金春禅竹らが継承

狂言…猿楽の滑稽味を継承 庶民劇 能の合間に演じられる。

⌋

1374 年京都今熊野の演能に將軍義満を迎えて観阿弥・世阿弥親子にとって終生の大事件であった。伊賀の田舎から出発した

Pain is inevitable Suffering is optional

東山文化

銀閣…足利義政が京都東山に建てた山荘。義政の死後寺院となり⇒慈照寺と称された。
キーワード下層⇒書院造 上層⇒禅宗 様



内部⇒ 付書院 ・ 明障子 ・ 違い棚 を言えるように。

枯山水・同朋衆

禅の精神で統一された庭園① 龍安寺

② 大徳寺大仙院

作庭を担当した山水 河原者 は賤民身分。東山山荘を建てた⇒善阿弥

水墨画=遣明船で明に渡り水墨画を学んだ 雪舟

土佐派の 土佐光信 が 大和絵 を、水墨画 に 大和絵 の手法を取り入れた 狩野派 の 狩野正信 ・ 元信 父子。

彫刻…能面の制作をした 後藤祐乘



秋冬山水図(雪舟)

【お茶の簡単な歴史】

3 人組を時期を間違えずに覚えるのが大切。「侘」の字、よく間違えるよ。

鎌倉	<u>栄西</u> が宋からお茶の種を持ちかえる。その上、「お茶は薬になる！」という本『 <u>喫茶養生記</u> 』を書いた。
南北朝期	<u>關茶</u> (お茶の産地当てクイズ大会) ・ 茶寄合の流行。
東山期	<u>村田珠光</u> 奈良の商人で、侘び茶を創始。禅の心をお茶に持ち込んで、茶の湯を簡素化した。禅は一休さんに学んだのだった。
戦国期	<small>たけのじょうおう</small> <u>武野紹鷗</u> 堺の商人 侘び茶をさらに簡素化。
桃山期	<u>千利休</u> が大成。

華道

池坊専慶：京都 六角堂 にいて、座敷の床の間を飾る 立花 様式を確立

樵談治要：樵^{きこり}でも徳をもとに国を治める方法を話している(談) 一条兼良 が9代将

軍足利義尚の質問に答えた政治意見書。彼は他にも有職故実書の 公事根源 と源氏物語の注釈で 花鳥余情 がある。

唯一神道：吉田兼俱 が本地垂迹説などを批判し、神道に仏教・儒学などを取り込んだ教説。

庶民文芸の流行

一寸法師など、おとぎ話として親しまれているのを 御伽草紙 と言う。

幸若舞…太鼓を伴奏として謡いながら舞うもの、織田信長が愛好した。

小唄…庶民の間で流行し、口ずさまれた歌謡である。小唄などを集録した⇒ 閑吟集 を記憶したい。

いろは順に日常用語などを編集した辞書を⇒ 節用集 と言い、奈良の饅頭屋宗二が出版した。

二条良基：彼は南北朝時代の人で北朝の摂政・関白・太政大臣。応安新式 ⇒鎌倉時代からある規則を応安、新しく定めたものなので新式。『菟玖波集』は和歌の勅撰集と同格と見なされた。

宗祇 の正風連歌は和歌の伝統を生かした芸術的な連歌、代表作が 新撰菟玖波集。

宗鑑 はより自由な気風を持つ俳諧連歌を作り出し 犬菟玖波集 を選集した。

風流踊りは祭礼などで趣向を凝らした踊りで庶民に広まった。

盆踊り…祖先の精霊を迎えて供養し、霊を送る行事の時に踊られた。

文化の地方普及 146P

山口…文化の地方普及は、京都の荒廃、貴族の窮乏化、城下町の形成、大名の中央文化への憧れがキーワード、代表的城下町山口は、大内氏 が 寧波の乱 で細川氏に勝利して以来日明貿易を独占して繁栄し、五山の禅僧や公家が多く集まって文化的に発展した。

禅僧の 桂庵玄樹 は肥後の菊池氏や薩摩の島津氏に招かれて儒学を講義。薩南 学派のもとを開いた。彼が大内領内で活動していたことも出た。また朱熹の『大学章句』を刊行したことは必ず記憶すること。

足利学校：関東管領 上杉憲実 によって再興された。フランシスコ=ザビエル により 坂東の大学 と称された。庶民の学校ではなく、禅僧や武士に高度な教育を施した ことが重要。寺院での教育…対象は地方武士の子弟。教科書として『庭訓往来』や『御成敗式目』が用いられた。

町人による書物の刊行

『節用集』は奈良の 饅頭屋宗二 が出版した。

新仏教の発展

林下 …五山より自由な活動を求めて地方武士・民衆へ布教した禅宗諸派の寺院。布教の中心は臨済宗の 大徳寺 ・ 妙心寺、曹洞宗の 永平寺 ・ 総持寺。僧では 一休宗純 が出る。

日親 …京都を中心に、中国・九州に日蓮宗を布教した。

6代將軍足利義教に『立正治国論』をもって諫言した。

法華一揆…京都で豊かな商工業者により結ばれる。1532年に山科本願寺を襲撃。

＊ 天文法華の乱 …1536年、日蓮宗と対立を深めた延暦寺は、僧兵を京都に侵入させ日蓮宗寺院を焼打ちにした。

蓮如 …応仁の乱の頃、経ではなく平易な文章を 御文 を使って阿弥陀仏の救いを説いた。また、講 を組織し、特に北陸・東海・近畿に広まった。蓮如は石山本願寺の基礎を築いた僧であり、本願寺8世の法主である。一橋大の論述でも出た。

